



山正 LINE 公式アカウント友達募集中!

レイミーの AI 病害虫雑草診断アプリ



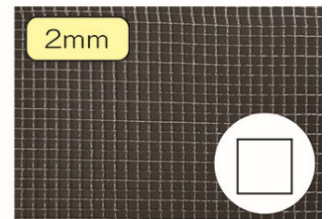
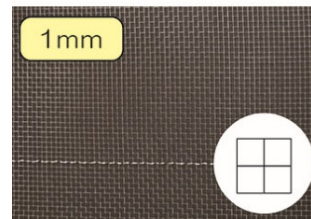
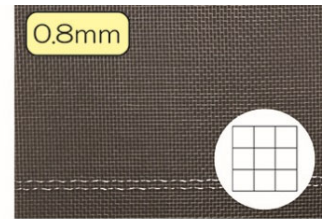
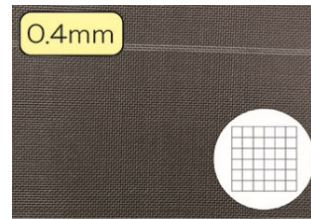
## §1 防虫ネットの選び方

政府の「みどりの食糧システム戦略」の方針が発表され、減農薬栽培や有機栽培が注目されております。その中で、害虫除けの防虫ネットの使用は最適なアイテムのひとつであります。しかしながら、防虫ネットの種類は多岐にわたっており、色や目合いも含めてどのように選択するか悩ましい所です。今月はその防虫ネットの選び方についてご紹介します。

防虫ネットはポリエチレンを主原料とした糸を使用したものが多く、対象となる害虫の体より小さい目合いにすることや色で害虫の侵入を防ぐ効果があります。

<害虫の大きさによる最適な目合い>

- 0.4mm: コナジラミ類、アザミウマ類
- 0.6mm: ハモグリバエ類、キスジノミハムシ
- 0.8mm: アブラムシ類
- 1.0mm: コナガ、アオムシ、ヨトウムシ類
- 4.0mm: オオタバコガ、ヨトウガ、ハイマダラノメイガ



細かい目合いになるほど防ぐことのできる害虫の種類は増え、防虫効果は高まりますが、目合いが細くなると、通気性が落ち、ハウス内が高温となる懸念が生じるため、ハウス内では換気扇、循環扇を使用して換気の確保をしたり、遮光・遮熱ネットと併用して高温対策することが必要となります。

<色による誘因効果と防虫効果>

通常の防虫ネットとして使用されるのは透明色(白色)です。目合いの種類が多いので、害虫の種類によって選択することが可能です。

次に使用するのは黒色ネットですが、これは防虫と遮光の兼用となり、日差しが強く暑い時期のトンネルがけとして使用されることが多いです。

最近では赤いネットで覆われているハウスを見かけることが多くなりましたが、これは、アザミウマ類(食害被害やウイルス媒介)の飛び込みを避けるために利用されています。われわれ人間には赤色に見えるネットですが、アザミウマ類などの微小害虫は赤色光の波長が認識できず、黒い障壁に見えるため飛び込みが減少するメカニズムになっています。



<通気性が高く、虫イヤ効果を持つ新防虫ネット「虫バリア」>

近年では、殺虫効果のある合成ピレスロイド「エトフェンブロックス」が糸に練り込まれたネット「虫バリア」が発売されています。練り込まれている「エトフェンブロックス」は極微量で、蒸散や揮発することもなく、糸の表面に徐々に滲み出てくる仕組みとなっており、殺虫効果まではないまでも、忌避効果を示し、害虫の侵入を抑制します。その忌避効果は5年間持続します。

## §2 トウモロコシの害虫とその防除について

メキシコ原産の夏野菜の代表トウモロコシには、食用のスイートコーンと家畜等の餌に使用される飼料用とうもろこしの2種類があります。かつて飼料用とうもろこしはホールクロップサイレージとして活用されるケースが多く、害虫防除を行う必要は少なかったのですが、近年では濃厚飼料として使用されるイアコーンサイレージ(トウモロコシの雌穂)や完熟子実の出荷が増えており、害虫防除の必要性が高まっております。今月はトウモロコシの害虫と、飼料用トウモロコシ(子実コーン)で使用可能な薬剤を紹介します。

### <トウモロコシを加害する害虫>



- 1) 「アワノメイガ(体長 15mm、淡黄色)」:トウモロコシの穂に卵を産み付け、孵化した幼虫が茎内部や子実に侵入して雌蕊部分や実を食い荒らします。暖かくなる春先から発生し、年間複数回の世代交代を行い、大きな被害をもたらします。
- 2) 「オオタバコガ(幼虫 20-40mm、緑～オレンジ色)」  
幼虫が葉や実および果実の先端にあるヒゲ部分を食害します。
- 3) 「アワヨトウ」:幼虫が葉の周縁部から食べ進み、生育を阻害します。



- 4) 「ツマジロクサヨトウ」:近年飼料用トウモロコシで被害が拡大しつつあり、生育初期に食害を受けると被害が拡大します。
- 5) 「アブラムシ」:6～7月にかけて葉や茎に寄生し、吸汁加害をもたらします。また、大量に発生するを排泄物によって生じるカビにより、「すす病」になる恐れや、モザイク病などのウイルスを媒介するため積極的な防除が必要です。
- 6) 「カメムシ」:収穫時期が近づいたトウモロコシに飛来し、実を吸汁して被害をもたらし、商品価値が損なわれます。
- 7) 「ネキリムシ」:蛾の幼虫で、定植後1週間くらい地面近くの葉を食害し、葉が完全にかみ切られることもあり、大きな被害をもたらします。

### <飼料用トウモロコシでの登録のある殺虫剤>

近年の飼料用トウモロコシ栽培の増加に伴い「飼料用とうもろこし(子実)」で登録をとった殺虫剤一覧です。ドローンでの散布が可能な剤も含まれています。

飼料用とうもろこし(子実)							
農薬名	適用病虫害名	希釈倍率	使用液量	使用期間	本剤の使用回数	使用方法	農薬の使用回数
プレバソフアフル5	アワノメイガ、オオタバコガ、ツマジロクサヨトウ	2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
		20倍	1～2L/10a			無人航空機による散布	
フェニックス顆粒水和剤	アワノメイガ、オオタバコガ、ツマジロクサヨトウ	32倍	3.2L/10a	収穫前日まで	2回以内	無人航空機による散布	2回以内
		20倍	100～300L/10a			散布	
アクセルフアフル	アワノメイガ、ツマジロクサヨトウ	1000～2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
		1000倍					
コテツフアフル	ハダニ類、オオタバコガ、ツマジロクサヨトウ	2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内

- I. 「食用トウモロコシ」は収穫ステージにより「穀物(子実とうもろこし)」「未成熟とうもろこし(スイートコーン)」「野菜類(ヤングコーン)」に分けられており、農薬登録上も別の作物として取りあつかわれるので注意が必要です。
- II. 「とうもろこし」の適用登録では、「とうもろこし(子実)」と「未成熟とうもろこし(スイートコーン)」のいずれにも使用可能です。また、「とうもろこし」は「穀物」に分類されますが、「ヤングコーン」「ベビーコーン(トウモロコシの幼果を収穫)」は「野菜類」に分類されます。